

実践記録

学校/学年	中学校／1年	
教科等・単元名	総合的な学習：コンピュータの安全な使用	
キーワード	プライバシー、ホームページ、個人情報、架空請求	
情報モラル指導 モデルカリキュラム表における 目標	分類	☐ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☒ 安全への知恵 ☒ 情報セキュリティ ☒ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	d4: 危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する
	中目標項目番号 中目標項目内容	d4-2: トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る
授業会場	☒ パソコン教室 ☐ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	インターネット上に出していい情報、いけない情報を知る	
使用教材	教材名	架空請求例のパワーポイント
	製作者	(授業者個人)
	入手先 (URL等)	実際に受け取ったメールを元に自作

○学習展開案

	学習活動	指導 評価◎
導入	次の事をインターネット (WebPage、掲示板) に公開してもいいのだろうか?…の小クイズ	{住所、本名、電話番号、メールアドレス、年齢、血液型、生年月日、ニックネーム 等}
展開	実際の架空請求の例を見る。 ・ 巧妙な理屈、脅し ・ 具体的な振込み方法 ・ しかし垣間見れる矛盾点 架空請求があった場合は大人に相談。 そもそも架空請求にあわない生活。	実際に緊迫感を持って考えることができるか。 架空請求にあった場合を考えることができるか。 インターネット上に出していい情報といけない情報がわかるか。
おわり	これからの心構えの確認	安全に気をつけてインターネットを扱うことが大切であるとわかったか。

○授業の実際

- ・ 実際の架空請求の文章を使い、臨場感を出すことができたと思う。
- ・ 生徒はこう変わりました；
 - 「架空請求が送られてくるのは他人事」として考えていたが身近な被害の可能性があるとわかった。
 - 「自分は架空請求になど引っ掛からない」と考えていたのが巧妙で迫力もある文章を読み、本当に怖いものだと感じる事ができた。

○授業の成果

- ・ “垣間見れる矛盾点”のところは生徒も納得した表情であった。
- ・ しかし、現実、インターネットでの買い物等は益々浸透してきている。油断を持たせないよう指導が必要と思われる。

○指導のポイント・留意点

- ・ 「架空請求なんてかかりっこない」という思いは出ないようにする。他人事と考えないように。